

- 2017年世界最終戦争の正体： 馬渕睦夫著 担当:石田昭 2016年12月11日
- 1 トランプ当選を予見した元・ウクライナ駐在大使。ウクライナの問題はネオコンのシリア作戦失敗の余波。アサド政権を支援し、ネオコンに反対するプーチンの失脚を狙ったもの。軍産複合体と国際金融資本家によるプーチン追い落とし作戦。第三次世界大戦も画策。
 - 2 これはイスラエルとアラブのハルマゲドンを意味し、危険。救えるのはプーチン。米国職業軍人はネオコンに反対、トランプを支持。アイクは退任時に軍産複合体の危険性を警告。
 - 3 ネオコンの正体は、グローバリズム、国境なき市場経済を主張するウォール街の連中。正論に聞こえるが、実体はスターリンの一国社会主义に敗れたトロッキー主義者。紐育の労働者レーニンは、ウォール街の資金を“封印列車”に積み、モスクワに。だが世界共産革命に失敗。ルーズベルト政権を操ったのは、モスクワの指示を受けた工作員、日本を戦争に引き込んだ連中も同じ。
 - 4 エリツィンの市場化政策は失敗、国民経済の破綻と同時に政商・新興財閥オリガルヒを生んだ。愛国者プーチンは新興財閥の専横を抑制し、ロシア経済の建て直しに成功した。
 - 5 プーチンの政敵として対立したベレゾフスキイの「オープンロシア財団」はイギリスのJ・ロスチャイルドと組んだもの。ユダヤ系資本家を警戒し、グローバル市場化に抵抗するプーチンの打倒を狙ったが、プーチンは屈しなかった。政敵はロンドンで謎の死。暗殺？
 - 6 マスコミは無知、世界を破滅から救えるのはプーチンである。トランプもネオコンのグローバリズムに反対するナショナリスト。総裁先生「枕を高くして眠れる」の真意。カジノ法案？
 - 7 先の日米戦争も同じ国際金融資本家の策謀。対日戦争には大義がなかったこと、原爆投下、無差別空襲など国際法違反であり、戦争犯罪という歴史の見直しが開始された。「原爆投下は前代未聞の残虐行為、アメリカの良心は永遠に苛まれる」と、フーバー回顧録に。
 - 8 アメリカが21世紀も軍事大国を維持するために「新たな真珠湾」が必要で、それが9.11テロだという認識がある。軍事費の飛躍的な増大を主張するネオコンの目的が達成された。
 - 9 サンニ派のセイイン政権は安定していた。米政権はシーア派のマリキ政権にすげ替え、サンニ派を追い出した。米軍の引き上げで、混乱の中サンニ派の「イスラム国」が生まれた。中東の混乱はネオコンの狙いでもある。戦争は覆面の傭兵がやっているから終わらない。
 - 10 リビアのカダフィー暗殺を指示したヒラリー長官もネオコン。リビアの武器をシリアの反政府組織に供与しようとして大使が殺された(ベンガジ事件)指令に私的メール使用。
 - 11 「IS」とはネオコンが共産主義者の伝統的戦術を使用した暴力革命の21世紀版である。中東の安定的な「世俗政権」を打倒し、イスラム過激派を台頭させ、国内に混乱を起こすパレスティナ問題の目眩まし作戦。この件をトランプは知っていて、他国政権の破壊を否定。
 - 12 「グローバル化による世界統一」の手段としてテロを利用、「国家という概念を壊す」共産主義運動がイスラム過激派として蘇った。先生の言葉にも「21世紀の共産主義はイスラム問題」とある。
 - 13 ブッシュ親子(共和党)、クリントンはグローバルリーダーの役割に失敗。オバマはネオコン・ブレジンスキーの教え子で期待されて抜擢。失敗したら、第3次世界大戦をも画策。
 - 14 オバマは最近翻意(両建て作戦に気付きか)中国の膨張政策抑止に転換。米中2大国制を認めず。トランプは外交方針を転換し、蔡英文氏と電話、キッシンジャー訪中、中国の大誤算。
 - 15 「マネーを支配するものが世界を支配する」、「通貨の発行権さえくれれば、法律は誰が作ろうと構わない」(M・A ロスチャイルド)。リンカーン、ジャクソンなど中央銀行制度に反対。ウィルソン時代に民間銀行家達が連邦準備銀行を設立。マモンやバールの悪魔信仰
 - 16 2017年は日露新時代の到来。日本の国際的地位が安泰になる。安倍総理真珠湾訪問の愚